

## 学校事務の共同実施による業務の効率化

中核校	帯広市立広陽小学校	指定校	帯広市立啓西小学校、帯広市立西陵中学校
-----	-----------	-----	---------------------

### 実践前の状況

- ・学校事務職員が、学校経営への参画の具体的なイメージをもっていなかった。
- ・中核校、指定校の事務職員の交流はあるが、業務連携まで至っていなかった。

### 実践の概要

#### 積極的な事務部会の開催

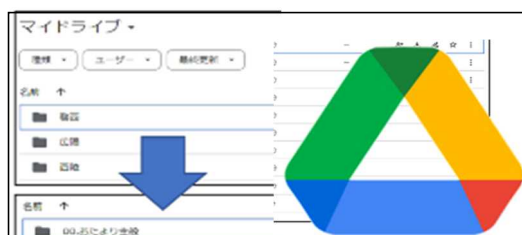
- ・これまで慣例的に行われていた「事務部会」を、課題共有や情報共有、実践事例の共有及び学び合いを目的として月1回程度、開催することにより、制度変更に関することや調査に対する取組方法等についての共有及び若手事務職員のOJTの場として、積極的に活用する場であるという共通理解のもとで行った。

#### ドライブ等を活用したデータ共有

- ・事務部会において確認した内容や、各校が作成した資料、学校事務に関するお便りなどを共有のドライブに保存し、互いの業務に関するデータを共有したり、各種データを利活用したりすることにより、業務スケジュールの見通しの共有や業務の効率化を図った



【事務部会の開催】



【ドライブを活用したデータ共有】

### 実践の充実にに向けた取組の工夫

#### 〔教育委員会及び校長の取組〕

- ・共同学校事務室を設置するなど、8月に中核校である広陽小学校の主幹教諭と事務職員を先進的な事務連携を行っている東神楽町立東聖小学校に派遣し、共同学校事務室における取組の具体について研修を深める機会を設定した。

#### 〔教頭及び事務職員の取組〕

- ・教頭と事務職員による職場の環境整備等を積極的に進めるとともに、中核校と指定校の事務職員の連携と業務改善の推進を目指し、Google チャットを活用したタイムリーなやりとりを可能とするシステムを構築した。集合による打ち合わせ以外に、参集しなくてもできる情報共有をより円滑に、かつ気軽に進めることで、スケジュール管理等が充実し、初任段階事務職員が配置されている学校の円滑な事務管理につながった。

### 成果（ ）と今後の課題（ ）

先進的な事務連携を行っている東神楽町の共同学校事務室の視察を通して、学校事務における業務連携の具体的な取組に触れることにより、その効果や課題について考える大変良い機会となり、業務改善の視点から「西陵地区で実施可能な事務連携の在り方」について、より具体的な話し合いが行われるようになった。

〔学校評価（教職員）の「業務の効率化」の項目について、肯定的な評価が増加した。（R4：3.8 R5：3.9）〕

今年度は、年度途中からの取組となってしまったことから、次年度は、今年度の協議内容に基づいた年間を見通した実践を通して、その効果の検証と改善を進めていく。